

令和4年度第1回 北九州市子ども・子育て会議【会議要旨】

1 開催日時

令和4年8月18日（木） 15:00～16:15

2 開催場所

AIMビル3階 311会議室

3 出席委員数 ※委員定数：15名

13名（北野委員、錦戸委員欠席）

4 議題

- 1 「元気発進！子どもプラン（第3次計画）」の実施状況について
 - ・ 「元気発進！子どもプラン（第3次計画）」令和3年度実績について（資料3）
 - ・ 「元気発進！子どもプラン（第3次計画）」
（令和2年度「北九州市次世代育成行動計画」点検・評価）（資料4）
 - ・ 「元気発進！子どもプラン（第3次計画）」
（北九州市次世代育成行動計画）15の施策の評価結果（資料5）
 - ・ 「元気発進！子どもプラン（第3次計画）」
北九州市子ども・子育て支援事業計画（令和3年度実績）（資料6）
- 2 その他

5 会議経過

委員の一部改選に伴う委員紹介

- ・ 藤野 時彦 委員（北九州市医師会 理事）
- ・ 福田 百合加 委員（北九州市PTA協議会 副会長）

1 「元気発進！子どもプラン（第3次計画）」の実施状況について

【主な意見・質問等】

（委員）

成果指標の所の「成果の評価」のところ、そもそも基準値が高い指標がいくつかあり、90以上の基準値などを目標値にすると、10ポイント未滿上昇となり、評価が2となってしまふ。第4次計画策定の際、基準値や目標値、成果指標を最初どのように設定していくのか、検討が必要だと思う。

⇒（事務局 回答）

4次に向けて、どういう事を基準にするか、検討させていただきたい。

(委員)

コロナ禍において、子どもが外で遊ぶ機会が減っている。心の事（ケア）も含めて子どもの体の成長（筋力の低下など）について、心配している。

⇒（事務局 回答）

保育園、幼稚園、認定こども園での過ごし方にも関わってくる部分だと思うが、ご心配いただいた、筋力の低下など防ぐような方法を一緒に考えていきたい。逆に委員の皆さまからご意見をいただければありがたい。

(委員)

新型コロナの影響によって、この第3次計画に対する成果とか評価を行い検証していく以前に、計画自体を柔軟に臨機応変に変更していくといったことは考えなかったか。

⇒（事務局 回答）

当初は計画の数値の見直しが必要であろうと考えていたが、令和3年度の数値が大きくは変化がなかった。今後、大きく乖離するようであれば、必要に応じて検討したい。

(委員)

新型コロナ禍の中で、母親学級の開催が控えられており、相談出来る同じような環境の人と出会う機会が少なくなっている。そういった横の繋がりが出来にくくなっている部分は、どのように評価するのか。

⇒（事務局 回答）

コロナの影響で緊急事態宣言などにより、行動制限が出たことで、各教室で休止しなければいけない状況が続いた。また保護者も参加を控える方が増え、結果として、参加人数や開催が減ってきている。「会ってお互いの話を聞く」という事は非常に重要なので、感染対策を講じつつ、開催をしていかなければならないと思っている。また、リモートで開催などの工夫を行っている。

(委員)

子どもの館、子育てふれあい交流プラザ（元気の森）なども同じような施設なのに、各々で対応が異なるので不思議に思う。

⇒（事務局 回答）

2つとも同じ事業者が運営しており、基本的には同じ対応を取っていただくようお願いしているが、今後は対応を統一するよう改めさせていただく。

(委員)

非常に最近、発達障害とか障害の診断を持つ方が、とても増えている、教室が足りないような状況になってきていると聞いている。子どもの数が減っている中で、なぜそういう現象が起きているのか、市の方で分かる範囲で教えて欲しい。

⇒（事務局 回答）

実際に支援学級を希望される方が多いという事、また、放課後等デイサービスのご利用者も実際に増えているという現実もある。理由として考えられるのは、発達の特性がある子どもさん達の対応に困っているご家族の方や周囲の方、皆さんの知識も増えており、支援学級やサービスも充実してきている事も相まって、利用者が増えているのかなという気もする。色々な形で情報収集され、医療機関やサービスにつながっているのではないかと。

(委員)

I C Tを活用した授業を行っていると思うが、ここの充実を図るという予定は、どのように考えられているのか。

⇒ (事務局 回答)

昨年度から中学生対象に、今年から小学生に対象を拡大。「楽しみにしている」という感想も聞くので、ある一定の効果は挙げられているのではないかと思う。これから来年度以降もっと充実させるのか、回数を増やすのか時間を増やすのか、そういった事も含めて検討していきたいと思う。

(委員)

スクールソーシャルワーカーの配置型の検討について、どういう地域でどのようにやっているか、教えて欲しい。

⇒ (事務局 回答)

本市では配置型ではなくて派遣型をやっている。配置型、派遣型それぞれメリット・デメリットあり、ソーシャルワーカーの中にも得意分野、不得意分野がある。ソーシャルワーカーの数自体は年々増やしていこうという計画のもとに進めているが、今後どうなるかは現段階でははっきりとは言えない。

(委員)

資料に「非行者率は昨年度、増加に転じている」と記載があるが、その要因が分かれば教えていただきたい。

⇒ (事務局 回答)

非行率の状態は、もともと平成15年がピークで、それ以降は下がってきていたが、令和に入って上がりつつある。警察の方とも要因について議論しているが、「これが原因」と明確にするのは困難。昨年度はコロナ禍でパトロールもなかなか出来なかったが、今年度はかなり通常の形に戻している。教育委員会、子ども家庭局、警察、また法務局などと連携しながら、対策を取って行き、引き続き、非行防止対策に努めて行きたい。

(委員)

「地域に役立つ公園づくり事業」について、地域の自治会も減ってきて公園を支える人が減ってきている中で、(公園を) どんどん作っていくのは良いが、こういった形で維持されているのか。公園の作り方だけでなく、維持の方法も併せて指標に持って行かないといけないのではないか。

⇒ (事務局 回答)

施設の維持に関しては、どう指標に生かしていくか、次期プランに向けて考えていきたい。

(委員)

主任児童員さんとか児童館の母親クラブなど、支え手、担い手高齢化している中で、そういった方々の育成について、どこまで市が支えている状況、仕組みなのか。

⇒ (事務局 回答)

主任児童員については、担い手不足の中で、市の民生委員児童委員協議会(以下、民児協)、区や地区の民児協などが、様々な方と連携しながら、担い手を探していただいている状況。育成、指導と言う点については、民児協の会議の場や、他にも色々な協議の場に、市の職員が参加

して、意見交換をしながら、一緒に子ども達の見守りや、主任児童員の活動を連携してやっている状況である。

(委員)

市の大きな流れとして全体的に予算が少しずつ削られていると聞いているが、このような状況だからこそ、例えば冊子作成などで、NPOと行政などが協働出来る仕組みが出来ないだろうか。

⇒ (事務局 回答)

皆さまご意見を聞きながら、色々な仕組みを作っていくのは良いと思う。冊子作成などの広報に関しては、ホームページやSNSを使ったやり方など、様々な事が考えられるので、ご意見を伺いつつ、今後も色々と知恵を絞って行きたい。

(委員)

各区の区役所からショートステイの申込について、かなり多くの問い合わせがある。ショートステイは、各区で100%消化されているのだろうか。

⇒ (事務局 回答)

ショートステイの申し込みは各区役所で受けて、各児童養護施設に問い合わせをしている。受け入れにあたっては、児童養護施設のキャパが空いている場合に受けていただく状況で、中には断るケースもあると聞いている。本市においては、空いていない場合は他の施設に問い合わせながら、なるべく受け入れる形にしている状況である。これからはレスパイトケア、子育て支援という事は非常に重要なので、ハード面を整えながら拡充していきたいと考える。

(委員)

里親の委託率が前年度から減少という結果が出ているが、これは、こういった事が要因か、また今後の方向性などを伺いたい。

⇒ (事務局 回答)

今回、委託率が減少した理由というのもいくつか考えられるが、3月の時点で委託の解除が複数件重なった事、通年通してもコロナの影響でなかなか委託のタイミングが合わなかった事、保護者が里親を敬遠するといった事例もあった。委託の相談はあるが、子どもの方に課題が大きく、里親では対応が困難という事が予測される事などもあった。このように様々な要因が重なって、減少となっている。一方でリーフレットの配布などで、啓発の方も進んでおり、一時保護委託の委託数は増えている状況で、里親の需要は増えている。今後も、児童の特性、成育歴、保護者の意向なども踏まえながら、子どもにとって、落ち着いた生活環境などを設定していきたいと考える。

2 その他（子どもに関するアンケートについての説明）

（事務局説明）

現在の「元気発進！子どもプラン」においては、直接子どもの意見を聴く機会は限られているので、今後、次期「元気発進！子どもプラン」の策定に向けて、課題整理も兼ねまして、直接子どもの意見を聴く機会を検討したい。

【主な意見・質問等】

（近藤会長）

第3次において「子どもの意見」はある程度大人が設定した中での意見だった。それを一歩進めて、子ども達が本当に何を考えているという事を少し踏み込んだらどうかという提案である。まだ形が決まったものではないので、事務局の事業提案に対してご意見いただければ。

（委員）

子ども間のヒアリングって面白いと思う。「対話する、させる」など、議論というか対話が出来る。色々な言葉を子ども達同士で引き出しあえるような形でやってみると、面白い結果が出るような気がする。

（村上太郎副会長）

子ども達からのヒアリングも大事だと思う。クリティカルな意見になるのか、新しいアイデアの種になるのかは、聞いてみないと分からないが、楽しみにしたいと思っている。